

考察

- ベイジアンフィルタリング・提案手法は似た傾向
- 無害文書が有害判定される割合が高い
 - 学習データの平均単語数の違いが原因
 - 正例平均20単語, 負例平均30単語
- 手法を組み合わせることで精度向上を図る
 - ブースティング(多段階フィルタ)を用いる
 - 組み合わせた手法のうちどれかが無害と判定すれば無害, そうでなければ有害とする
 - ベイジアンフィルタリング・提案手法を組み合わせる

手法の組み合わせの結果

		有害判定	無害判定	判定不能	再現率	適合率	F値
ベイジアン+ 2単語共起	無害文書	2771	3781	7	57.76%	97.92%	0.7231
	有害文書	6591	80	2	98.80%	70.40%	0.8220
ベイジアン+ 3単語共起	無害文書	2553	3999	7	61.12%	96.99%	0.7487
	有害文書	6547	124	2	98.11%	71.94%	0.8301
2単語共起+ 3単語共起	無害文書	2771	3781	7	57.64%	96.99%	0.7231
	有害文書	6554	117	2	98.24%	70.28%	0.8193
ベイジアン+ 2単語共起+ 3単語共起	無害文書	2537	4015	7	61.21%	96.91%	0.7503
	有害文書	6543	128	2	98.05%	70.20%	0.8306

全体の比較

	正判定	誤判定	判定不能	正判定率
ページアン	10061	3171	0	0.7603
SVM	7035	5927	0	0.5520
2単語	10119	3104	9	0.7652
3単語	10203	3020	9	0.7710
ベ+2単語	10372	2851	9	0.7838
ベ+3単語	10546	2677	9	0.7970
2単語+3単語	10335	2888	9	0.7810
ベ+2単語+3単語	10558	2665	9	0.7979

見方をいろいろとかえてみる

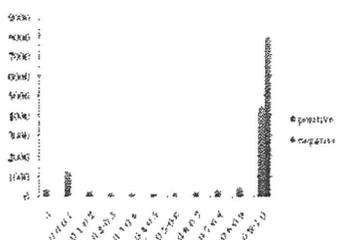


Figure 6: positive : negative = 1 : 2

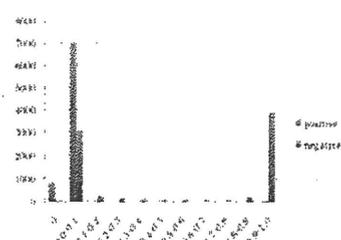


Figure 7: positive : negative = 2 : 1

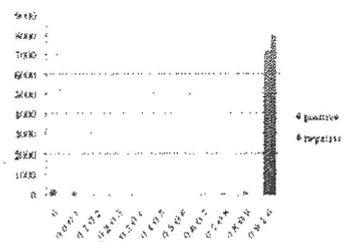


Figure 8: positive : negative = 1 : 4

Table 13: positive : negative = 1 : 1

1:1	positive	negative
harmless sentences	523	7477
harmful sentences	6258	1742

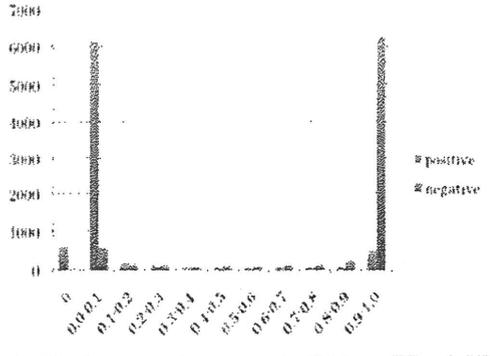


Figure 9: positive : negative = 1 : 1

Table 14: F value , recall and precision table

Ration of the words	precision	recall	F value
positive : negative = 1 : 2	0.992	0.642	0.757
positive : negative = 2 : 1	0.485	0.981	0.649
positive : negative = 1 : 4	0.999	0.525	0.688
positive : negative = 1 : 1	0.782	0.923	0.847

伊藤孝行 ito.takayuki@nitech.ac.jp

ロビンソン方式

出現確率と独自の指標によって調整

$$f(w) = \frac{s \cdot x + n \cdot p(w)}{s + n}$$

各単語(共起)の出現確率

$$H(D) = 1 - \left\{ \prod_{w_i \in D} f(w_i) \right\}^{\frac{1}{n}}$$

無害性

$$S(D) = 1 - \left\{ \prod_{w_i \in D} (1 - f(w_i)) \right\}^{\frac{1}{n}}$$

有害性

$$I = \frac{S - H}{S + H}$$

指標I (-1 ≤ I ≤ 1)

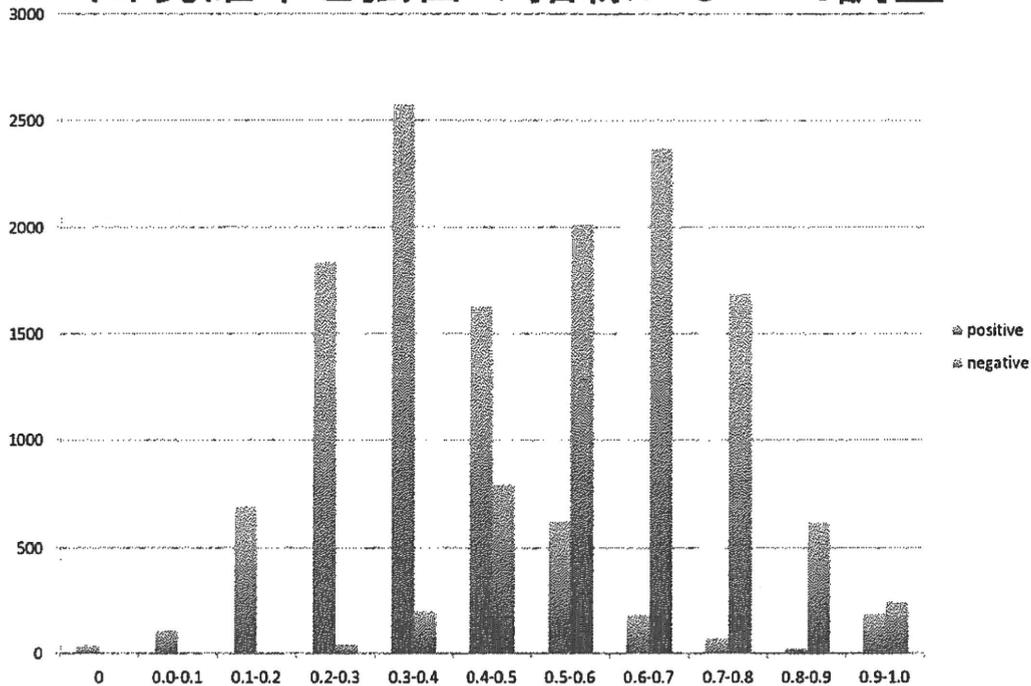
$$I_2 = \frac{1 + I}{2}$$

指標I2 (0 ≤ I2 ≤ 1)

伊藤孝行 ito.takayuki@nitech.ac.jp

ロビンソン方式

出現確率と独自の指標によって調整



伊藤孝行 ito.takayuki@nitech.ac.jp

まとめと今後の課題

- 複数単語の共起を用いた有害文書判定手法の提案
 - 2単語共起, 3単語共起を用いた手法の提案
 - ベイジアンフィルタリング, SVMとの比較
 - 手法の組み合わせを行った

情報の構造化による
事故・ヒヤリハット情報の利活用

データの収集と解析 —疫学的観点から—

2011年5月13日 於:東京大学

日本医科大学
医療管理学教室

小塩 篤史

医療ミスに関するデータの収集

- 観察
- カルテレビュー
- 自発的報告(Voluntary Report)
- 情報システムのログ
(注射認証システム、電子処方箋 etc.)

自発的報告システム

- 伝統的なKnowledge Management System (US military 1940~, NASA etc.)
- 現時点では、医療ミスに関して最も情報が豊富
- 報告を行う事による「学び」の効果、安全文化の醸成
- 悉皆性無し、恣意性有り
- 報告への動機付けは？
米内科医協会調査では、安全対策業務は、パフォーマンスとして十分評価されていない

NHSの報告システム

- インシデント報告数を組織毎、地域毎に公表・定量化
- NHS Databook
- 報告数の多い病院が安全な病院！
- 課題はあるが、公表することで、報告を促す

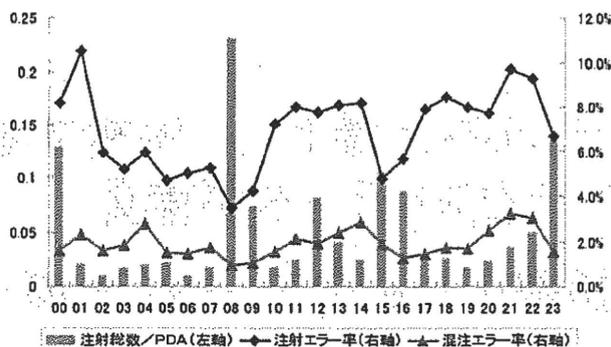
データの解析

- インシデントを定量化し、解析する場合には、コンテキストデータが重要
- ✓ リスク調整のためのデータ(地域・病院・患者)
- ✓ 医療従事者のデータ(多忙さ等)
- ✓ 構造データ(病院形態・施設等)

情報システムによるデータ収集

- アメリカ “Meaningful use of Health IT” オプション項目 Incident reporting system
- 悉皆性
- コンテキストデータが豊富
- 電子カルテのマイニング、電子処方箋、注射認証システム
- 個人情報保護をどうするか

ワーニング解析



- 注射認証システムのワーニング解析
- 観察型研究よりも高いエラー率
- エラーの原因分析(業務の多忙さよりも、煩雑さが影響等)

オオカミ少年問題

- 「医療ITによる過剰警告がミスの原因の第一位に」(Health care IT News. Top 10 causes of medical error by healthcare IT. April 2011)
- 警告があつて、何も起きないと、警告を信頼しなくなる
- 構造化無き情報提供は、情報の無視につながる？既存データの丁寧な解析で信頼性の高いルールの設定が重要

失敗の改善から質の向上へ

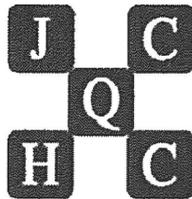
- 不良品の排除Quality ControlからTQMへ
- ドナルド・バーウィック(IHI)の患者安全運動
- 安全管理は、質向上の先鋭隊

情報の構造化による医療事故・ ヒヤリ・ハット情報の利活用に関する研究

公益財団法人日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部
産科医療補償制度運営部
後 信

 公益財団法人 日本医療機能評価機構 1
Japan Council for Quality Health Care 1

20110506 (改)



公益財団法人 日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

医療事故情報収集等事業について

2

Japan Council for Quality Health Care (JCQHC)

登録状況			ヒヤリ・ハット事業						合計	
			参加する				参加しない			
			発生件数と事例情報		発生件数のみ					
医療事故事業	義務	参加する	123	388	80	243	69	210	272	
	任意	参加する	265		163		141		569	
		参加しない	163	213	-	376				
合計			551	456	210		1,217			
			1,007							

3

Japan Council for Quality Health Care (JCQHC)

参加形態	年	17年	18年	19年	20年	21年	22年
義務	報告件数	1114	1296	1266	1440	1895	2182
	医療機関数	272	273	273	272	273	272
任意	報告件数	151	155	179	123	169	521
	医療機関数	283	300	285	272	427	578

ホームページにおける公開件数：2703件

4

Japan Council for Quality Health Care (JCQHC)

報告件数 (ヒヤリ・ハット～発生件数情報)



	第21回	第22回	第23回	第24回	合計
(1)薬剤	38,356	47,583	50,518	49,967	186,424
(2)輸血	654	725	871	840	3,090
(3)治療・処置	5,471	6,839	7,567	7,138	27,015
(4)医療機器等	3,312	4,618	4,263	4,494	16,687
(5)ドレーン・チューブ	19,065	22,931	23,847	24,954	90,797
(6)検査	8,577	11,030	11,339	11,471	42,417
(7)療養上の世話	27,347	32,385	34,324	33,862	127,918
(8)その他	14,864	15,873	17,016	17,923	65,676
合計	117,646	141,984	149,745	150,649	560,024
再掲					
【1】薬剤の名称や形状に関連する事例	1,956	2,656	4,228	3,700	12,540
【2】薬剤に由来する事例	14,587	16,491	18,629	19,422	69,129
【3】医療機器等に由来する事例	1,800	2,223	2,099	2,073	8,195
【4】今期のテーマ	160	569	1,434	520	2,683
報告医療機関数	393	427	445	455	
病床数合計	161,262	170,664	182,973	184,648	

5

報告件数 (ヒヤリ・ハット～事例情報)



	2010年												合計	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
事例情報参加登録														
医療機関報告数	162	794	1,494	3,201	1,280	2,167	3,199	3,166	1,596	4,091	2,036	2,119	25,305	
事例情報参加登録	540	541	543	539	540	540	542	545	551	553	555	558	-	
医療機関														

ホームページにおける公開件数：8804件

6

財団法人 日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

医療機関の方 | 参加登録 | 医療事故情報報告ロギン | ヒヤリハット事例報告ロギン

ホーム 事業概要 医療安全情報 報告書類・年報 参加登録/医療機関一覧 関連文書 ENGLISH

一般の方 医療機関の方

医療安全情報 → 2009.06.01 NEW
医療事故情報収集等事業のホームページがリニューアル致しました。

報告書類・年報 → 2009.06.01 NEW
医療事故情報収集等事業 医療安全情報部が申し込みを開始しました。

参加登録/医療機関一覧 →

ENGLISH →

医療事故情報報告ロギン
ヒヤリハット事例報告ロギン
関連文書

利用ガイド 参加登録

財団法人日本医療機能評価機構 HPへ 最新ヒヤリハット事例収集・分析事業 医療事故情報収集等事業

財団法人日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部
〒100-0061 東京都千代田区三軒町1-4-17 森ビル10階
TEL: 03-5217-0252(直線) FAX: 03-5217-0253 E-mail: webmaster@med-safe.jp

11

財団法人 日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

公開事例情報 医療機関の方 | 参加登録 | 報告システムロギン

ホーム 事業概要 医療安全情報 報告書類・年報 参加登録/医療機関一覧 関連文書 ENGLISH

一般の方 医療機関の方

公開事例情報 →

医療安全情報 →

報告書類・年報 →

参加登録/医療機関一覧 →

ENGLISH →

報告システムロギン
関連文書

利用ガイド 参加登録

2010.03
医療安全情報ロギンがご利用できるようになりました。

2010.07.15
医療安全情報D誌44を公開しました。

2010.07.14
報告書(第21回報告書)を公開しました。

2010.07.06
本日20:20にメンテナンスが終了いたしました。「事故登録」及び報告システムロギンをご利用いただけます。この度は、皆様のご協力に感謝申し上げます。

2010.07.06
本日のメンテナンス中、「事故登録」及び報告システムロギンにアクセスすることができません。ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

2010.06.15
医療安全情報D誌43を公開しました。

12

ファイルのダウンロード機能 (医療事故/ヒヤリ・ハット)

医療事故/ヒヤリ・ハット 発生事例検索

水ページによる事例公表は、医療安全の推進を目的として行っています。
 各事例内頁で検索 各事例内頁の検索と並びます。本ページの検索は任意可決。発生年月は必ず検索のし、発生年月の範囲検索の検索とはなりません。
 注：事故事例報告の発生年月は必ず入力してください。

発生年月: 2021年 3月 - 2021年 3月

全文検索:

事例種別: 事故 納血 治療・処置
 医療機器 ドレーン・チューブ 検査
 患者上の世話 その他

事例は必要に応じて、情報や医療機関名称の保護に配慮し一部修正することがあります。
 なお、公表した事例内頁は保護色の付いた状態で、その他の記載は行われません。

表示一覧の件数: 表示 - 見出し順

事例ID	事例種別	発生年月	事例の概要	事例の種別
AD91272044E040253	事故	2021年 3月
AD3FD04E0C-AD577E5	事故	2021年 3月
A19099E72002E000	事故	2021年 3月
AD898D0A812EFA24	事故	2021年 3月
AD945D1D851E286FF	事故	2021年 3月
AD834FCAD33F7E48D	事故	2021年 3月
A1E0C05021E140E9D	事故	2021年 3月
A7737009E53DC457E	事故	2021年 3月
A4C9B34D14E0037F1	事故	2021年 3月
AD6688AF72E4D1486	事故	2021年 3月

CSV出力

CSVファイル形式
のダウンロードが可
能になりました

日本医師会医療事故削減戦略

「医療事故削減戦略システム」

平成 21 年 10 月
日本医師会医療安全対策委員会

(重点項目 3) 採血の安全な実施

1. 事例
 採血時の患者の意識が低下し、採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。

2. 本事例の問題点
 採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。

3. システムで実現する安全確保・予防のための取組
 1. 患者の体位を確認し、患者が安静に寝ている状態であることを確認し、採血針が静脈から外れ、出血を伴った。
 2. 採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。
 3. 採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。
 4. 採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。
 5. 採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。
 6. 採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。
 7. 採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。
 8. 採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。
 9. 採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。
 10. 採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。採血針が静脈から外れ、出血を伴った。

4. 参考資料
 1. 日本医師会医療安全対策委員会 医療事故削減戦略 第 12 - 14 - 15 図表

輸血情報 0910-122

患者取り違えに関連した医療事故の概要：輸血関連

この症例は、患者Aの血液製剤を患者Bに輸血した医療事故に関する報告書です。患者Aの血液製剤が患者Bに輸血された結果、患者Bは重度の合併症を発症しました。この事故は、患者Aと患者Bの血液製剤の取り違えによるものであり、患者Aの血液製剤が患者Bに輸血されたことが原因です。

【ケース1】 患者Aの血液製剤が患者Bに輸血された医療事故の概要

● 患者Aの血液製剤が患者Bに輸血された。● 患者Bは重度の合併症を発症した。● 患者Aの血液製剤が患者Bに輸血されたことが原因である。

● 患者Aの血液製剤が患者Bに輸血された。● 患者Bは重度の合併症を発症した。● 患者Aの血液製剤が患者Bに輸血されたことが原因である。

【ケースII】 患者Bの血液製剤が患者Aに輸血された医療事故の概要

この症例は、患者Bの血液製剤が患者Aに輸血された医療事故に関する報告書です。患者Bの血液製剤が患者Aに輸血された結果、患者Aは重度の合併症を発症しました。この事故は、患者Bと患者Aの血液製剤の取り違えによるものであり、患者Bの血液製剤が患者Aに輸血されたことが原因です。

【ケースIII】 患者Aの血液製剤が患者Bに輸血された医療事故の概要

この症例は、患者Aの血液製剤が患者Bに輸血された医療事故に関する報告書です。患者Aの血液製剤が患者Bに輸血された結果、患者Bは重度の合併症を発症しました。この事故は、患者Aと患者Bの血液製剤の取り違えによるものであり、患者Aの血液製剤が患者Bに輸血されたことが原因です。

● 患者Aの血液製剤が患者Bに輸血された。● 患者Bは重度の合併症を発症した。● 患者Aの血液製剤が患者Bに輸血されたことが原因である。

【ケースI】 (医療事故情報収集等事業 第17回報告書 p.151より抜粋)

〈事故の内容〉

医師は、患者Aの血液製剤実施の指示を出した。看護師は、輸血部から患者Aの血液製剤を持ってきた他の看護師とともに、ナースステーションで血液製剤と伝票の患者氏名、血液型の照合を行った。その後、看護師は、患者Bのベッドサイドに行き、その患者が患者Aであるかを照合せずに接続した。2時間後医師が患者Bのベッドサイドに行き、指示していない血液製剤が接続されていることに気付いた。

● 口頭での指示。 ● ナースステーション ● カルテの未確認。 ● 未確認のまま輸血。 ● 2時間後…